

週刊 タバコの正体

覚せい剤を服用すると脳にドーパミンが発生し、人は快感を得ます。この仕組みはタバコに含まれるニコチンの作用と同じです。しかし、この快感を得るためにタバコを吸い続けるのと覚せい剤に依存



してしまうのでは、その症状に大きな違いがあります。

覚せい剤などの薬物に依存してしまうと左図のような症状が現れます。特に幻覚による反社会的行動が発生するケースもあり、覚せい剤の影響は誰の目にもはっきりわかります。

一方、ニコチン依存の場合は幻覚が現れることはなく、喫煙者である事がはっきりわかる症状はあらわれません。それどころか、ほとんどの喫煙者は見た目には健康です。

覚せい剤は法律で禁止され、タバコは公然と販売されているのはこの症状の差なのでしょう。では、見た目に健康に影響がないタバコは安全なのでしょうか……。

「タバコは見た目に健康に影響がない」と言うより、「すぐに健康に影響しない」というべきなのです。1年や2年、毎日何本もタバコ吸い続けても外見上は健康にしか見えません。たいていは、30年も40年も吸い続けると肺がんや脳梗塞などの病気になっていくのです。だから、決して安全なものではないのですが、長期間に渡って少しずつ目立たないように健康を奪っていくからこそ、タバコの有害性は認知されにくく、法律で禁止されるまでに至っていないのです。

産業デザイン科 奥田 恭久